

令和7年度 調布市立柏野小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎考える子（友達と共に学び、自らの考えを深めていく児童「主体的に学ぶ力」） ○思いやりのある子（命の大切さを理解し、自他を大切にできる児童「人とかかわる力」） ○健康な子（自他で運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、自らの身を守ろうとする児童「健康・安全に努める力」）	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「わくわくする学校」 ○児童が、自らの成長を感じ、生き生きと学べる学校 ○教職員が、自信とゆとりをもって、互いに高め合える学校 ○保護者や地域が、安心して任せられるとともに、すすんで関わりたくなる学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	主な現状 ・学校生活に前向きに取り組もうとする児童は多い。一方で、学習や生活面で課題がある児童、登校渋りのある児童、特別な支援が必要な児童が各学年に一定数いる。 課題 ・授業のめあてや振り返り、発問の工夫など単元を通して主体的に学べる授業の実践（UDの視点） ・人とかかわりを通して、自分の考えを深めるための協働的な学びの実践（ICTの活用、校内研究） ・読書に親しむ機会を充実し、読書に積極的に取り組む機会の創出（朝の時間や図書室の活用、家庭学習）

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	・進んで読書したり、文章を書いたりする力。 ・文章を正しく読む力。 ・自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力。 ・相手の思いや考えを正しく聞き取る力。	・語彙を増やす。帯指導として漢字指導を授業内で行う。 ・図書の時間の充実を図るとともに、全学年、宿題として音読または読書を課す。 ・ワークシートの他にノートを積極的に使い、課題に対して書くスペースと機会を確保する。 ・作文の型や話型など、自分の思いや考えを伝達する基本の型を指導する。
社会	・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考えたり、表現したりする力。 ・地域や国土、歴史や文化など人々の働きを理解し、様々な資料や調査活動を通して調べ、情報を適切にまとめたり、友達に伝えたりする力。	・身近な社会的事象を取り上げ、調べる必然性のある学習課題を設定して、主体的な態度につなげる。 ・資料の読み取り方や考えのまとめ方を丁寧に確認し、部分的な違いや全体的な傾向などを、複数の資料を関連付けて読み取ることができるようにする。 ・調べ学習では、自分に合うものを選ぶように複数の資料を用意したり、一人やペア、グループなど話し合いの形態をいくつか提示したりと、個別最適な学習方法につながるよう指導を行う。
算数	・数学的な見方を通して、課題について多面的に考えよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付く今後の生活や学習に活用したりしようとする力。 ・算数の問題について、数学的な見方・考え方を基に見通しをもって筋道を立てて考え、まとめたり、伝えたりする力。 ・数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする力。	・単元により指導形態を工夫し、習熟度に応じた指導を行う。 ・自分の考えをもち、友達の考えを聴き、対話を通じて理解を深めたり、広げたりする活動を設定し、主体的な態度につなげる。 ・中学年において、毎回授業の始めに100問計算をし、基礎的な計算の習熟、及び集中力を高める。 ・計算ドリルやベーシックドリルを中心とした反復学習に取り組むようにし、四則計算などの基本的な技能及び既習事項の定着を図る。
理科	・自然の事物や事象に興味関心をもって接する中で、気付きから疑問をもち、予想や検証するための計画を立てる力。 ・観察や実験を通して、他者と共同しながら考えを深め、科学的根拠を踏まえて考察する力。	・授業で扱う様々な具体物や実物に向き合う時間を十分に確保し、実験や観察の場面を多く設定して、自主的で実践的な学習となるようにする。 ・個人で思考する時間、集団で思考する時間を設定する。
生活	・自然と触れ合い、手指を使って表現したり、伝え合ったりする力。 ・集団の中で協力し、学び合う活動を活かし、人や物に積極的に関わる力。	・植物の観察、学校の畑や地域の公園、「かに山」等、自然と触れ合う機会を設定する。 ・1年生と2年生がより密に関わることができるよう、学校探検や1年生を迎える会などで、直接関わる機会を増やす。 ・地域めぐりを1・2学期に目的を変えて複数回行う。

音楽	・他者と協働しながら、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取り、音楽を形づくっている要素を理解する能力と、それを自分なりの表現につなげようとする思考力。 ・音楽に親しみ、友達と合わせる楽しさを感じ、音楽活動に主体的に取り組む力。	・気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、自分の考えを深めたりする。 ・知識や技能を得たり生かしたりしながら音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもち、実際に歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりする過程の充実を図る。 ・ペア学習やグループ学習等、めあてや児童の実態に合った学習形態を工夫する。
図画工作	・自らの思いをためらいなく表現し、表現することに喜びをもつ力。 ・展覧会の中で作品の鑑賞をするなど、お互いの存在や良さを認め合う力。 ・材料や用具を使い、表し方を工夫して、創造的につくったり表したりする力。	・課題に対し自分自身の思考で解決できるよう、「試す」「工夫する」「やり直す」活動が十分に保障できる指導計画を立てる。 ・ＩＣＴ機器を活用し作業が視覚で分かるようにする。 ・道具の安全かつ正しい扱い方の指導を反復し定着できるようにする。 ・よいアイデアを共有し、発想を広げる機会をつくることで造形的創造力を養う。 ・授業の導入でその時間のねらいを明確に伝え、実演を示して作品のねらいが具体的につかめるようにする。 ・素材や表現対象などに触れる機会を多く設定し、感覚を通して児童が感性を働かせることができるようにする。
家庭	・自分の生活経験を振り返り、生活をよりよくしようとする工夫を考え、課題を解決する力。 ・日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、自分の生活に役立てようとする力。 ・友達とよさや頑張りを認め合い、新たなアイデアを得て、自分の生活に生かす力。	・日常生活で活用できるものを製作することで製作意欲を高め、完成したものを実際に活用することで喜びと達成感を味わえるようにする。 ・調理や手縫い、ミシン縫いの技能のポイントを動画や写真などで視覚的に提示し、自分で確認しながら取り組めるようにする。 ・活動を振り返り、家庭で実践できることを考えることで、家庭の一員としての自覚を高め、家庭生活に目を向けられるようにする。 ・家庭で実践したことを振り返り、学級で共有することで、他者からの新たな視点を得たり、自分に合う方法を考えたりできるようにする。
体育	・児童が自身の能力を知り、生涯を通して運動に関わり健康維持に努めるために考える力。 ・運動への多様な関わり方に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上に主体的に取り組む力。 ・児童が主体的に課題を設定し、その課題に向けて対話しながら解決することができる力。 ・友達と教え合ったり、作戦を相談したりして、他者との関わりを楽しむ力。	・自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わりと関連付けるようにする ・ちょこブラ１調布に取り組み、授業だけでなく、日常から体力向上に主体的に取り組むことができるようにする。 ・短縄・ジョギング・長縄旬間を実施し、運動をするきっかけをつくれるようにする。 ・指導の際に動きを細分化し、適切な動きの補助を行うように努める。 ・グループだけでなく、個に応じためあてをもてるようにし、達成感を味わうことができるようにする。 ・児童が互いに教え合うために、必要な技能のポイント掲示物や ICT を活用する。
外国語	・日本語と外国語との違いを理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力。 ・他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力。	・「定着」を目標に毎時間指導に当たる。活動の切り替え時にはチャンツを流し、外国語に触れる時間を多くする。 ・インプット・アウトプットの割合を6：4とし、児童が他者に配慮しながらコミュニケーションを図ることができるようにする。 ・「読む」時には、スモールステップで行い、文字と音を合わせるようにしたり、「書く」時には、時間を決めて書かせたりすることでスムーズな授業を展開する。 ・モデルを示す、練習する、気持ちや考えを伝えることを意識した授業をし、外国語で自己表現する言語活動を毎時間取り入れる。 ・次の展開への外国語の指示を増やしていくことで、英語で授業を進められるようにする。
道徳科	・道徳的諸価値について理解し、自己を見つめる力。 ・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める力。 ・他者との関わりや集団の中での自分の在り方を考え、よりよい人間関係を築く力。	・教材のねらいに沿った事象を、児童の身近な場面に引き寄せることで、当事者意識をもって考えられるようにする。 ・特定の道徳的価値を絶対的なものとするのではなく、児童への揺さぶりを取り入れ、児童同士の話し合いの場を多く設定することで多様な価値観に触れられるようにする。 ・ＩＣＴの活用や場面絵や仕掛け、デジタルコンテンツなどの視覚的・聴覚的装置を用い、児童の興味や関心を引き出す。
外国語活動	・外国語を話すことを楽しみ、他者に配慮しながらコミュニケーションを図る力。 ・「聞く」「話す」のコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を高める力。	・「十分に英語を耳になじませること」を目標に毎時間指導に当たる。そのために、活動の切り替え時にチャンツを流し、英語に触れる時間を多くする。 ・掲示物は精選し、黒板に貼るようする。 ・モデルを示す、練習する、気持ちや考えを伝えることを意識した授業をし、自己表現する言語活動を取り入れる。